

# Special Issue

## 「大きな福祉」を提唱する コンセプトワークショップ代表の佐藤修さんに聞く

### つながりあうと見えてくる 問題解決への道と新しい価値



佐藤修さん プロフィール

佐藤修(さとうおさむ)：(株)コンセプトワークショップ代表。コミュニティケア活動支援センター事務局長。「 commons の回復」をテーマに、企業、行政、NPOにおける「共創型変革プロジェクト」に関わりながら、それらをつないでいくことを目指している。著書：『企業文化と広報』(日本経済新聞社)『文化がみの〜れ物語』(茨城新聞社)など。

#### コミュニティ活動支援センターの活動報告書

- 2000年度 みんなでつくるコムケア物語のはじまり
- 2001年度 「ひらく」から「つなぐ」へ
- 2002年度 新しい物語づくりに向けて「つなぐ」から「つくる」へ
- 2003年度 新しい物語が生まれた「つながりあう」から「つながりづくり」へ



#### コミュニティケア活動支援センター

〒113-0034 東京都文京区本郷 3-37-8  
本郷春木町ビル 9階  
TEL 03-5689-0957 FAX 03-5689-0958  
http://homepage2.nifty.com/cmcare/

お話をうかがったのは、湯島にある、コンセプトワークショップのプライベートオフィス。ここでのオープンサロンは、月に1回最終週の金曜日に開かれている。企業や行政、NPOなどの垣根を超えた、多彩な人が集まる気楽なおしゃべりの場は、実は発想の源泉。ここで次々と新たなプロジェクトが生まれる。

#### ■ 共に新しい価値を創っていく喜び

まずは佐藤さんが主宰される会社、コンセプトワークショップについてお聞きしたいと思います。

コンセプトワークショップ=CWSをつくったのは1989年です。その年の3月に、それまで勤めていた「東レ」を退社しました。C(企業イメージ確立戦略)の仕事に携わり、企業が社会に対してどうあるべきかなど考えてきたなかで、では自分のアイデンティティとは何なのかということに思い至りました。組織人としてやってきて25年目のことです。ここで生き方を変えてみたいと。

会社を辞めた翌日、たまたま、地元である我孫子市の北口に駐輪場をつくるという住民の話合いに参加しました。これが、行政や地域社会との出会いです。ずっと企業のなかにいたわたしにとっては、大きな違和感がありました。発想の起点や議論の進め方が、企業の世界とは違つのです。そこで現場ではどんなことが行われているのかわかるために、全国に足を運びました。さまざまな分野の人たちと話すうちに、それぞれが問題意識を抱えながら、それぞれの世界に閉じこもりがちなのに気づくわけです。そういう人たちと一緒に問題を解決し、さらに何かを創っていく活動はできないかと、同年8月、CWSを立ちあげました。

CWSは『共創型カウンセリング会社』ということですが... 199年に、「マインド・ネットワーク」という本で、コラボレーションという言葉が紹介され、注目されるようになりました。これは協働と訳されること多いのですが、大切なのは一緒に活動することではなく、一緒に新しい価値を創りだしていくことです。ですから私は「共創」という言葉を使っています。そして、クライアントや関係者と一緒に、目指すべき新しいビジョンを創りだし、そこから問題を解決し、新しい価値を一緒に創りだすプロセスを楽しむという意味で、「共創型カウンセリング」と言っています。私の役割は、そうした状況を創りだし、支援していくことです。

#### ■ コモンズ=「みんなのもの」をとれどもです

会社の活動領域としての「コモンズの回復」ということについてうかがえれば

今だんだん、みんなのもの、というのがなくなりつつあるように思います。昔で言えば、鎮守の森とか、河川敷とか、入会地とか、みんなで使えるところがいろいろありましたが、それがなくなってきた。会社にしても、自分たちの会社、という意識がなくなっています。町もそうです。もう一度、みんなのものという感覚を取り戻せば、町も企業もきっとよくなります。そのみんなのものを取り戻すプロジェクトが、コモンズの回復です。発想の転換ですね。ベクトルの逆転。今まで、組織や制度からの発想だったものを、表情のある一人ひとりからの発想に変えてみる。すると今までとはまったく違った発想が生まれます。初めに制度があって、それにあてはめようとするから問題が発生するのです。介護保険制度にしても、学校の問題にしても、個人をベースにして、個人に合わせたみんなの組織をみんなで共創していく。それこそがコモンズです。

一例として和歌山に『きのくに子ども村学園』というのがあります。ここでは、学校に子どもを合わせるのではなく、子どもに学校を合わせます。子どもに何をしたいかといういいいに話を聞き、そしてカリキュラムを構成します。そうすることで、不登校、いじめなどの問題も起こらなくなっています。

問題解決の鍵は、現場にあります。地域の問題であればまず住民が話し合うこと。行政から依頼された仕事では、わたしがプランナーとして外部から関わるのではなく、住民と一緒に考えます。問題解決のためにみんなの知恵と汗を出し合う場づくりが大切です。そのためには、人のつながりが大きな力になっていく時代です。介護の問題を抱えた一人の当事者が朝日新聞に送った「ケアプランを自分で立てよう」という本の投稿から、その思いが同じ思いをもつ人につながり、『全国マイケアプラン・ネットワーク』というグループが生まれ、今では制度改定にも影響を持つようになった例もあります。小さな一歩から大きな物語が始まる時代になったのです。代表の島村さんはケアプランを単なる介護プランではなく、自分の人生を考えることとしてとらえていますので、活動はさらに広がっています。個人の思いが繋がっていくと大きなうねりになっていくのです。

#### ■ 表情をもった「人」と「人」のつながり

CWSのネットワークから生まれた、共創型プロジェクトのひとつが、コミュニティケア活動支援センター(コムケアセンター)という位置づけでいいのでしょうか。

はい。コムケアセンターは、2001年に、住友生命社会福祉事業団が実施する資金助成プログラムの実行事務局を受託する組織として設立されました。資金助成だけでなく、さまざまな相談に取り組んでいます。

キーワードのひとつ、大きな福祉というのは、コモンズにつながっています。それぞれが小さな世界で問題を抱え込んでいることが多いのですが、私たちの生活はさまざまな問題の複雑な絡み合いで成り立っています。ですから、例えば、子育ての団体が子供たちだけ見ていると限界があります。社会のあり方の問題として広くとらえて、みんなが自分の問題として共有すること、つながることで、解決策が見えてきます。そしてそれが、社会を安定させ豊かにしていきます。

「つなぐ」ということがコムケア活動の理念ということですが 近代産業は、つながりをこわすことで発展してきたといえます。企業は生産効率をあげるために、意味のあった仕事を単純な作業に分業化してきました。労働力を確保するために、労働者を地域や家庭から切り離してきました。また、市場拡大のためにも、つながりをこわしてきました。例えば地域社会とのつながりをこわすことで、警備保障というマーケットが生まれ、家事さえも主婦の手を離れて市場の対象になりました。その結果、たしかに便利にはなりましたが、でも何か幸せじゃないことに10年ぐらい前からみんな気づき始めたのではないのでしょうか。つながりはある意味うとううしいものですが、問題が起きて初めて、その大切さに気づくのです。

つながるといっても、組織と組織がつながるのではなく、そこに開く「人」と「人」とが繋がっていくことが大切です。組織は単に仕組みであって、主役はそこに参加している個人です。しかし、例えばNPOにしても、組織はりっぱになったのだけれど、当事者とそれを支援する側とのずれが出てしまったり、企業と同じように、効率を追求しているうちに、ただ忙しく、本当にやりたいことが見えなくなったりしている場合があるのではないのでしょうか。活動そのものがとても大切なですから、もっと楽しみながらやらなければこれまでの経済活動と同じようなものになってしまうかれません。

NPOは個人が主役で、そのメンバーがみんなそれぞれの表情と意志を持っているところに価値があるのです。メンバーが組織に困り込まれることなく、生活の次元で広く社会と関わりながら、組織を活かしていく。個人を介して組織が社会に開かれていけば、組織の常識と社会の常識のずれは起こりにくはずで、表情を持っ



#### ケアアップくん

大きな福祉の広がりをめざすコムケア活動のアイドル、ケアアップくん。おおざっぱで細かいことを気にせず、困った人をほっておけない、でもやりたいと思ったことには脳みもふらずに突き進んでしまおう一本気なところも...と、佐藤さんをイメージして仲間が作ってくれたものとか、コムケア仲間をつなぐ役目を果たしている。



社会を構成する3つのセクター 不安定な社会から安定した社会へ

た個人が主役の組織だからこそ、壁にぶつかっている社会を変革していくフロントランナーになれるのです。これまでの組織原理とは違うのです。

ソーシャルアントレプレナー(社会起業家)の活動が注目されつつあるようですが

例えばスワンベーカーリーは、障害者の働く場づくりの新しい事業モデルを示すことで、社会に大きな風を起しました。また、アサザ基金の飯島さんは、霞ヶ浦の湖岸の植物の復元から始まり、仕事起しや教育の問題に活動を広げ、さらには市民型公共事業のモデルを創りだしました。盲ろう者の訪問マッサージ事業を展開している有限会社フォレスト・ブラクティスの田辺さんも、社会起業家のひとりです。本当にやりたいことをつきつめていけば、仕組みは企業でもNPOでもなんでも多様でいいのです。埋もれている資源を活性化し、社会的価値を創る。要するに、みんなにとって幸せな社会を創っていくことができればいいですね。

#### 株式会社コンセプトワークショップ 会社概要

<業務内容>  
コンセプトデザインワーク及びその実現のプロデュースワーク  
社会のあり方につながる共創型プロジェクトの参加と支援

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9-603  
電話:03-5818-1366  
e-mail:qzy00757@nifty.com  
http://homepage2.nifty.com/CWS/  
設立:1989年8月30日  
資本金:1000万円  
代表取締役:佐藤 修

<仕事に取り組む上で大切にしていること>  
問題解決の鍵はいつも現場にある  
問題解決のためにみんなの知恵と汗を出し合うことが大切  
問題解決や価値創造はわくわくするような楽しいこと  
経営の基本は愛と慈しみ  
小さな一歩から大きな物語は始まる

<活動領域>  
コモンズの回復